

戦争を二度としてはならない。未来を担う私達に大人達は教えてきました。小学校3年生頃から国語の教科書には戦争の物語がのせられ、その悲しい物語の結末に小学生達は、「戦争は悲惨なもの。二度としてはならない。」と感じて来たはずです。私も、二度と繰り返してはならない惨劇を知っていたつもりでした。けれど、広島に行って私は戦争について本当に「知っているだけ」だったのだと思いました。

広島に行って、一番心に残ったのは原爆資料館でした。原爆で亡くなった人の数々の遺品。とても心が痛くなりました。たくさんの物の中でも、特にカラフルな紙で折られた小さな小さなつるが印象にのこりました。原爆による病で亡くなった禎子さんの折りづるです。彼女は千羽づるを折ると病気が治るという話を信じて必死につるを折り続けたのです。小さな折りづるに少しの希望をたくして、自分は死んでしまうのではないか。そんな絶望を押さえつけ、彼女が折ったつるのようにとても小さな希望にしがみつくようにして生きる少女。その気持ちが痛いほど伝わってきて、なみだをこらえました。

もう一つとても印象深かったのは、被爆した人を再現した像でした。赤黒く不気味な背景に大人と子供、体も服もボロボロの状態で立っているのです。私はその時、自分の想像していたものがいかに生易しい想像であったかを悟りました。現状はもっともっと辛く苦しかったのです。「戦争から目を背けてはならない。」そう言った私が戦争の現実から目を背けた瞬間でした。

この体験を通して、戦争の恐しさがより強く私の心に現れました。戦争をよく知らない私達には、戦争は遠い存在になりつつあります。なので、こうした学習事業はとてもいいと感じました。今回学んだことを生かし、私は、戦争について今一度理解を深めていきたいです。